

# 6か月～4歳のお子さまの接種に関する Q&A

## Q1. ワクチンの効果はどのくらいありますか？

A1. 6か月～4歳の小児に対する本ワクチンの3回目の接種から1か月後の、新型コロナウイルスに対する中和抗体価は、16～25歳へのワクチン接種と同様でした。

★最新情報はこちらのホームページをご確認ください。

厚生労働省のQ&A(<http://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/>)



日本小児科学会のホームページ(<http://www.jpeds.or.jp/>)



## Q2. ワクチンの副反応の心配はありますか？

A2. 6か月～4歳のお子さまは、ワクチンを受けた後、次のような症状がでるといわれています。  
(接種を受けた方の5%以上に起こったもの)

- 注射した部位の痛み、腫れ、発赤、紅斑
- 眠気、頭痛、イライラ
- 食欲がなくなる、下痢、おう吐
- 筋肉痛
- 疲労、発熱、悪寒

注射した部位の痛みの多くは接種翌日にあらわれ、持続期間は約1日でした。

その他の症状の多くは接種翌日～5日ほどであらわれ、持続期間は約2日でした。

これらの症状は、通常、数日以内に治まります。なお、病気治療中の方で解熱消炎鎮痛剤などを使用される場合は、主治医・薬剤師に服用についてご相談ください。また、ひどい痛み・腫れ、高熱など重い症状と思われる場合は、医師の診察を受けてください。

夜間に発熱・痛みなどの副反応等で、受診するか悩む時には「北海道小児救急電話相談(局番なしの「#シャープ8000」)」をご利用ください。家庭でどのように対処すればよいか、すぐに医療機関にかかる必要があるかについて、電話で看護師が助言、アドバイスを行います。他にも全国版救急受診アプリ「Q 助」などもご活用ください。

## Q3. なぜ6か月～4歳は3回の接種が必要なのですか。

A3. 6か月～4歳の小児に対する本ワクチンの3回目の接種から1か月後の新型コロナウイルスに対する中和抗体価は、16～25歳へのワクチン接種と同様という試験結果より、3回の接種が必要となります。

## Q4. 本ワクチン接種の1回目と2回目の間隔が3週間以上空いてしまった場合や、2回目から3回目の間隔が8週間以上空いてしまった場合は、どのようにすればいいですか？

A4. できる限り速やかに次の回の接種を受けてください。

## Q5. ワクチンはどこに、どのくらいの量を接種するのですか？

A5. 1歳未満のお子さまは、太もも外側に接種します。1～2歳のお子さまは、太もも外側もしくは、肩(三角筋)に接種します。3歳以上のお子さまは肩(三角筋)に接種します。ただし、明らかに筋肉量が少ない場合などは、年齢に関係なく太もも外側に接種します。

接種するワクチンの量は、1回に 0.2mlであり、有効成分量は大人の10分の1になります。

Q6. 新型コロナワクチンと他のワクチン接種を同時に受けることはできますか？

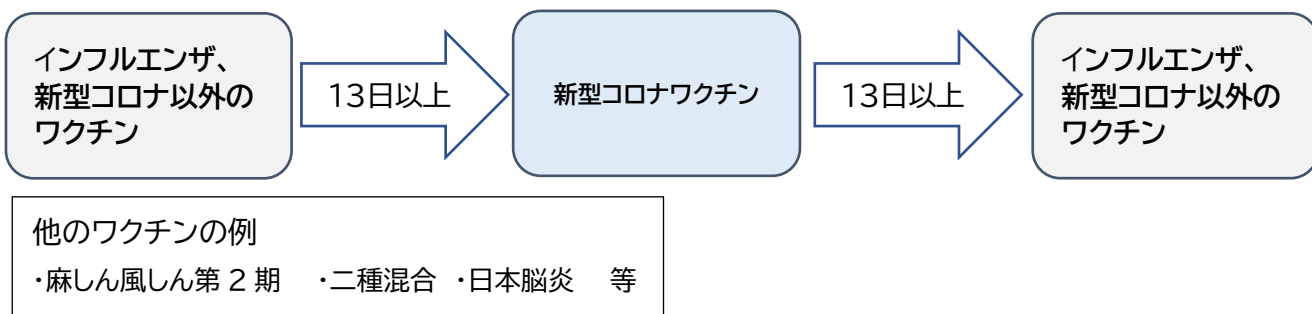
A6. 新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンとの同時接種は可能です。

インフルエンザワクチン以外のワクチンとの同時接種はできません。

互いに、片方のワクチン接種を受けてから2週間後に接種を受けることができます。特にお子さまは、定期接種で他のワクチン接種を受けることもありますのでご注意ください。

**確認のためにも必ず母子健康手帳をお持ちください。**

(例) 4月1日に新型コロナワクチンを接種した場合、インフルエンザ以外のワクチンを接種できるのは、4月15日(2週間後の同じ曜日の日)以降になります。



Q7. 2回目(または3回目)接種の前に、5歳の誕生日がきました。乳幼児接種のままでいいのですか。

A7. 3回目完了までに5歳の誕生日を迎えた場合は、引き続き乳幼児接種のまま接種を受けるようにしてください。

Q8. 本ワクチンの4回目の接種はどうなるのですか？

A8. 6か月～4歳の方を対象とした4回目(追加免疫)は現在ありません。

Q9. 新型コロナワクチン接種に関するお知らせを確認するには、どのようにすればいいですか？

A9. 「釧路市公式 LINE」から最新情報等を確認できます。ぜひご登録ください。



Q10. 接種時に必要なものはありますか。

A10. お子さまのワクチン接種では、原則、保護者の同伴が必要です。また、母子健康手帳の持参をお願いします。この他、送付された接種券等一式と本人確認書類(マイナンバーカード、健康保険証等)を忘れずにお持ちください。



なお、原則としてワクチン接種は体調のよい時に受けましょう。いつもと様子や体調が違う、何となく調子が悪そうな場合や、医薬品でアレルギー反応の経験があるお子さまや、食物アレルギーなどのアレルギー疾患があるお子さまは、必ず医師に相談しましょう。